

ユニバーサルデザイン (UD) プロセスの検討

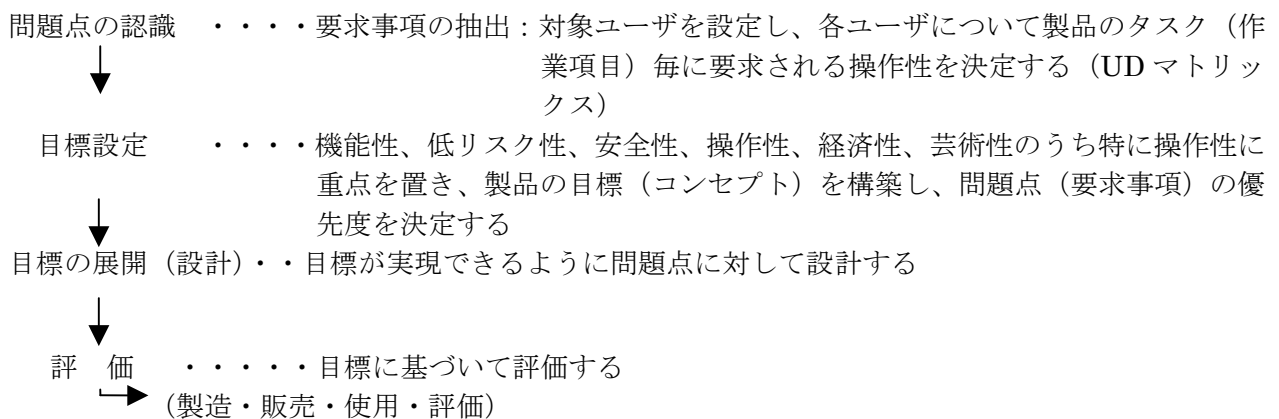
工学部 福祉システム工学科 松浦洋司

Keywords : ユニバーサルデザイン、アクセシブルデザイン、デザインプロセス、バリアフリー

「研究目的」

最近、障害者や高齢者、一時的不自由者（妊婦や病人など）、健常者などを問わず、全ての人が同時に使いやすいものづくり、すなわちユニバーサルデザイン (UD) が非常に注目されている。UD は思想なのか、方法論なのかといった議論もあるが、真に使いやすいものを作るためには、そのプロセスが明確になっている必要がある。さらに、デザインプロセスについては UD だけではなく、全てのものづくりにおいて確立されることが必要である。ここでは、UD プロセスとその特徴について検討する。

「UD プロセス」



UD マトリックスの例（眼鏡使用者が眼鏡をはずして入浴する） 縦軸：タスク 横軸：UD 指標

入浴する	寸法・形状	分り易い表示	操作性	安全性	維持管理
眼鏡をはずして置く	置き場		落ちることがある		
新しい下着を置く					
服を脱いで洗濯かごに入れる	服を脱ぐ十分なスペース				
タオルを持つ					
電灯をつける	スイッチの場所・高さ	スイッチの対応	スイッチの大きさ	耐水性・耐漏電性	ランプの交換・耐水性
浴室に入る	段差のわかりやすさ		ドアの開けやすさ	床の滑りにくさ	
タオルを置く	置き場				
浴槽のふたを開ける	ふたの置き場		手すりとの干渉		
湯加減を見る					
かけ湯をする	持ちやすさ				
浴槽に入る	手すりの有無			浴槽の滑りにくさ	
追い炊き・足し湯などを する…以下略	操作部の位置	文字やボタンの大きさ・色	ボタンの大きさ・凸部		取説を読んで下さい